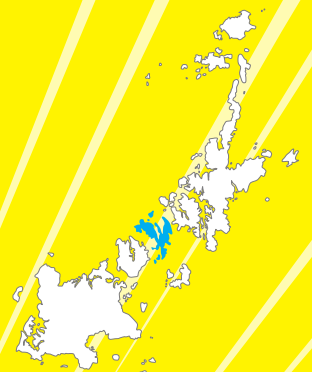


Now, Take Off!!

to the Narushima



飛びだろー！
ちゅー！

新しい自分になる島へ

長崎県奈留島
離島留学生
募集

五島列島
奈留島留学

長崎県立奈留高等学校／五島市立奈留小中学校



島の人たちが家族!

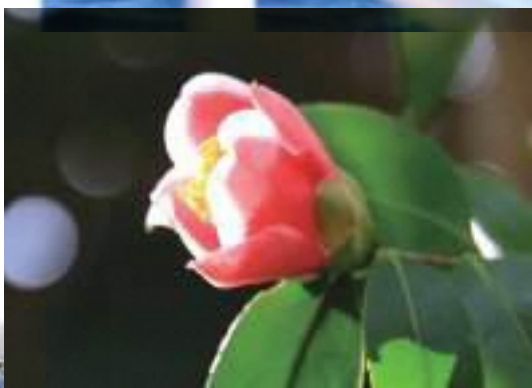
豊かな自然に囲まれた

奈留島生活

長崎港を出航して約4時間。
見えてくるのが、この奈留島の景色。
この島には、地域が子どもを見守る環境と
一人ひとりが主人公になれる
少人数教育があります。

五島列島にある小さな学校で
新しい自分を見つけに行こう!

Narushima Life



丘の上の学び舎

Learning
on the Hill

校舎から
海が見える
ステキな場所！

一緒に交流する

1歳～18歳
までが
みんな仲間！

こは小中高が



奈留島って
どんなところ？

五島市奈留町(なるまち)
人 口：1,735人(2025年3月末現在)
面 積：23.82km²
島内施設：病院/駐在所/消防署/郵便局
薬局/歯科/スーパー/小中学校
高校/保育所/宿泊施設 他
島内交通：タクシー/レンタカー
見どころ：世界遺産江上天主堂/
奈留高校愛唱歌「瞳を閉じて」歌碑
(作詞作曲:荒井(松任谷)由実)

キラと輝く海を
臨む丘の上に学び
舎があります。保育所から
小学校、中学校、高校まで
校舎が繋がり、グラウンド
もみんなで一緒に利用しま
す。運動会も文化祭もイベ
ントも、島の子どもたちが
一緒になって過ごしていま
す。一番チカラを入れている
のは「英語」です。週イチで
「イングリッシュデー」があり、
日常会話に英語を取り込
んで過ごしています。高校生
が小学生に英語の絵本だっ
て読んでくれます。小さい頃
から英語に慣れ親しみ、高
校生になると、英検に積極
的に挑戦しています。毎日が
楽しくなる学び舎を、一度
訪れてみませんか？

生きた英語を身に着ける！
E-アイランド・スクール

長崎県立 奈留高等 8

Let's speak
English
together.

2 英語重視の カリキュラム



英語が得意な人も、そうでない人も、生徒のレベルに合わせて丁寧に指導するプログラムが多く取り入れられています。授業内容は、全体的に英語科目が多く、海外からのネイティブスピーカーとマンツーマンに近いコミュニケーションはとて刺激的です。とくに「イングリッシュキャンプ」は、五島市のALTと一緒に奈留島の自然を満喫しながら英語に親しむ1泊2日の活動です。生きた英語を学びながら異文化交流にも触れることができる奈留高校ならではのプログラムです。



3 独自の多読指導 (NAPER)



「NAPER(ネイパー)」とは、Naru Project on Extensive Readingの略称です。これは自分に合ったレベルの英語書籍を10冊以上読み、読解力のレベルを徐々に上げていくプログラムです。英語の絵本を小学生に読み聞かせる取り組みもあり、読んで人に伝えることにも重点をおく英語学習になっています。

英検受験率は
長崎県で
ナンバーワン

1年生の授業の1/5が英語関連であり、2年生になるとさらに増えます。英検やGTEC(英語コミュニケーション能力を測定するオンラインテスト)には、ほぼすべての学生が挑みます。生徒の資格取得活動を全校挙げて行っているため、受験率は長崎県でナンバーワンになっています。



4

5 海外の学校と 国際交流



海外の学校とオンラインで国際交流を行っています。日本語を学んでいる海外の高校生と、英語を学んでいる奈留高校の生徒がお互いの文化や学生生活について意見交換を行い、奈留島を中心に日本の文化を発信していくものです。年に一度のお土産交換も楽しみのひとつです。

学校 Eight attractions

3つの魅力

E-アイランド・
スクールとは？

English

英語教育の充実、
実戦的な英語力

Experience

奈留高校、
奈留島ならではの
経験

Each and
every

一人ひとりを
大切にする教育、
少人数教育

まさに海外留学！英語教育に自信あり

開校してから60年の奈留高校は、生徒数27名ほどの小規模校です。奈留中学校から入学する生徒と離島留学制度を利用して入学する生徒が共に新しい環境で自律した高校生活を送ることができます。そこで付けられたキャッチフレーズは「奈留高校 E島 E明日 E仲間」。透明度の高い海とおいしい空気、豊かな自然の中で充実した高校生活が待っています。それも英語教育がメインという、まさに海外留学！新しい自分になりたい、新しい日常を送りたい、そして新しい仲間を見つけない人。ぜひ、奈留高校で実現してみませんか？



1 少人数が強み

令和7年度は、生徒27名に対して学校職員21名。ほぼマンツーマンの少人数教育で、一人の生徒に21名の教職員がサポートする手厚い環境です。学習はもちろん未来に向けた進路にも丁寧な指導を行っています。生徒の得意なことを伸ばしながら、苦手なことはゆとりと自分のペースで取り組める体制づくり。疑問が解決するまで一緒に考え話し合い、また、こまめな面談や面接練習など、希望進路の実現を強力にサポート。生徒と先生の距離がとて近く、何でも相談しやすいのが強みです。さらに、生徒一人ひとりが活躍できる場面が多く、主体性やリーダーシップ、協働する力を身につけることができます。

フォローしてね！



長崎県立
奈留高等学校公式
Instagram

8 小中高が 一緒になって開催する 季節のイベント

イベント開催に向けてミーティングを重ね、小中高生がともに運営しています。少人数ですが、協力して展示や会場設営、掃除など、本番前から終了後まで一人で何役もこなし、まとめる力や聞く力を培っていきます。

1月



ペタンク大会

フランス発祥の球技「ペタンク」を小学1年～高3までがチームに分かれて対戦する、奈留島で人気の交流イベント。経験豊富な小中学生は球を投げるのがとっても上手で、高校生は手加減なしの真剣勝負で挑みます。

英語を
教えるって楽しい!

英語の本の読み聞かせ



高校生が小学生に英語の絵本を定期的に読み聞かせする授業です。どの文章を読んでいるか指さし確認しながら伝え、発音にも気を配ります。小学生は先輩から英語を学ぶ楽しさと同時に高校生への憧れも生まれています。

定期的

英語スピーチコンテスト 3月

毎年開催する「英語スピーチコンテスト奈留杯」は、1年間学習してきた授業内容から興味を持った題材や今後の抱負を約5分間のスピーチにまとめて発表します。審査委員には奈留中学生も参加しています。



定期的



小中高交流給食

高校生が小学生と中学生の教室を訪れ、一緒に給食を食べて交流を深める活動です。食後はグラウンドや教室でゲームやスポーツを一緒に楽しみ、年代を超えて相手への理解や優しさを身に付けています。

4月 歓迎遠足



島外から新たに仲間に加わる新入生歓迎セレモニーをはじめ、合同ゲーム、ダンスなど楽しい時間を過ごす、とおきの時間。運営もすべて小学生から高校生が行う楽しい歓迎遠足です。

6月 小中高合同 かるた・百人一首大会



小学生低学年はかるた、高学年～高校生は百人一首に参加し、学年や校種を超えた熱い戦いを繰り広げます。

6月



9月

小中高合同 体育大会

体育大会の前に行われる「結団式」では、小学生から高校生までが手をつなぎ体育大会が成功するよう頑張ろうと気合を入れます。本番ではみんなで制作したTシャツを着て応援合戦。大玉転がしやダンス、綱引き、玉入れと、すべての種目にみんなが参加します。

シンガポールでの
英語体験は
人生観を変えるほど
刺激的でした!

修学旅行は 海外へ!

6



シンガポールで有名なホテル「マリナーベイ・サンズ」をバックにパチリ



スパイシーな東南アジアグルメも初体験!

7 小さな島の大きな挑戦! 奈留実践

奈留島は周囲約75キロメートルの小さな島です。この島には貴重な文化と産業、資源など豊かな風土が広がっています。一方で課題もあるのが現状です。「奈留実践」は、SDGsの目標のひとつである「住み続けられるまちづくりを」の達成に向け、地域の良さを学び、地域の課題解決に向けた取り組みについて研究し、発信するチカラを養うことを目的とした授業を行っています。奈留島の暮らしを英語で紹介したPR動画の制作も! 小さな島から大きな挑戦を続けています。

海に漂着する
ゴミを集めて
島の環境を守る
実践です!



奈留島で育てられた
トマトは甘くておいしい!



島にはどんな暮らしと文化、そして見どころがあるのか、島を探検してマップをつくりました。

世界遺産である江上天主堂
周辺の清掃にも参加します。



番外編!

奈留島のクエ鍋づくり!

地域の皆さんと活動する学びのひとつに「水産教室」があります。五島水産業普及指導センター、下五島地区漁業士会、奈留町漁協の方々のご指導の下、高級魚であるクエを使った「クエ鍋」と、奈留島で養殖されているアジを使った「アジの漬け井」づくりにチャレンジ! 生徒はアジの3枚おろしにも挑戦しました。奈留島の海は本当に豊か!



奈留高校ってどんな高校？

離島留学体験記

Experience of studying

卒業生インタビュー

※インタビュー当時

島のお母さんに感謝です



長崎大学工学部3年
小池 隼さん

離島留学で 自分の人生が大きく変わりました

「姉が奈留高校へ離島留学していたため、島での生活の楽しさは十分に分かっていました。中学生のときに一度体験留学をして、島の雰囲気や人々の優しさに感動して心が決まりましたね」と話す小池さんは、島に来て釣りにハマったそう。「アオリイカ、ヒラマサ、ブリ、クエなど高級魚が近場で狙えるってスゴイですね。自転車で釣りポイントを見つけながら島中を走り、島生活を満喫しました」。笑顔いっぱいの小池さんは、奈留高校のマンツーマン授業にも「自分のペースに合わせて

根気強く教えてくれた先生方に感謝です。塾にも行かず国立大学に合格できたのも奈留高だったからだと思います」と振り返ります。奈留島で人生が大きく変わったと話す小池さんは、普通では経験できないような貴重な体験が離島留学にはたくさんあると目を輝かせます。とくにホームステイでの生活は忘れられない日々だったようで、ホームステイのしま親さんには定期的に逢いに行っているそう。神奈川県から長崎へ。奈留島での学生生活はまさに小池さんの人生の宝となりました。

自分を
見つめ直す
3年間でした！



介護職
大西泰誠さん

自分の殻をやぶり 前向きに進む自信ができました

「大阪から親元を離れてきた不安もあり、ホームステイ先でも最初はごくごくなく過ごしていました。しかし、しま親さんが母のように温かく接してくれたこと、島の人たちが家族のように声をかけてくれたことが、楽しい学生生活につながったことは間違いありません」。大西さんは、中学生の時に縁あって奈留島を訪れ、奈留高校の夏の体験留学を経験。先生がとてもフレンドリーで会話も弾み、距離の近さに心動かされたそう。「分からない問題も気負いすることなくすぐに質問することが

でき、解決するまで丁寧に教えてくれる授業に、少人数の強みを感じました」。もともと内気でコミュニケーションが苦手だった大西さん。学級委員会での発表の場が多く、失敗を繰り返しながらも今では人と会話することがとても好きになったそう。「自分の殻を打破った感じですね。自分を大きく変えてくれた島の方々にいつか恩返ししたいと長崎市内の介護職を選び、高齢者が多い奈留島へいつかは戻りたいと考えています」。大西さんの島への愛は今も続いています。

在校生インタビュー

島の人が優しく声をかけてくれます



奈留高校3年生
山本千乃さん

親と離れて過ごすことで分かった 家族の愛と島の人の温かさ

中学3年生のとき、「今とは違う場所で生活してみたい」と福岡県から奈留島にやってきた山本さん。1年生の時から生徒会に入り、学級委員長、部活の部長とひとり何役もこなす多忙ぶり。「いろんなチャンスをいただき、自分の意見をしっかりとと言えるようになったことに驚いています。何より、英語にこれほど積極的になれたのは、奈留島に来てからです。いずれは海外留学も

したいと思っています」。英語の先生の熱心な指導に感動し学習意欲が高まったという山本さん。「小学生や中学生との交流も新鮮でした。奈留島に來なかつたら年下と関わるなんてなかったと思います」。しま親さんのホームステイは「人のありがたさと家族の愛をより理解することができます」と充実の高校生活を語ってくれました。

離島留学生との交流は刺激的！



奈留高校3年生
松村幸音さん

奈留島で学んだ英語を活かし 将来は海外で働きたいです

地元っ子の松村さんは、奈留小中学校を経て奈留高校へ。ここで出会った離島留学生との交流に刺激を受けたひとりです。「話し方や価値観の違いに、最初は戸惑うこともありましたが、次第に共感することが多くなり、島外の世界を知るよい環境だなと思っています」。英語も小学生のころから当たり前のように話し、中学生の時には英語スピーチコンテストに出場していたほど

の実力の持ち主。「離島留学生から、ここまで英語を話せるなんてスゴイね！と褒められたことがあり、改めて奈留島での英語教育のレベルの高さを実感しています」。また奈留高校は進路指導に手厚く、大学合格率も高いと話す。「将来は海外で働きたい」という松村さんはもう未来を見据えていました。

奈留高校の体験留学してみませんか？



奈留高校2年生
松本奈留さん

こんな高校生になりたい！ 優しい先輩たちに憧れてきました

大分県に家族がいる松本さんは、小さい頃から祖父母の家がある奈留島を訪れていたそう。「祖父母が留学生のホストファミリーをしていたことで親しい先輩ができ、こんな高校生になりたい！」と思ったことが決め手ですね。高校生活は、生徒会や部活などで、人前に立って活動できる自分に驚いているという松本さん。アメリカの学生と交流する機会や海外への修学旅行と、英

語を身近に感じる学習環境があることも刺激に。「小学生への絵本読み聞かせは勉強になります。大学に進学してさらに英語を学ぼうと思っています」と意欲的。離島留学制度については「もし興味があるなら、一度体験留学に来て欲しいです。奈留高校の生徒と話してもらい、島の自然の素晴らしさも実際に感じて欲しいです」。松本さんの目は輝いていました。

ただいま!

おかえり!

Living space

島の人に
支えられた3年間
卒業しても
また戻ってきたい
場所です!



学生寮のしまなび舎

※男子生徒のみ



卒業前のお別れ会は、
関係者みんなが焼き肉やパスタ、
刺身でもなしました。



みんな
よろしくね!

島ナビ隊

奈留高校から徒歩約15分。離島留学の生徒を受け入れる男子寮「しまなび舎」があります。建物は築100年の古民家を改修したどこか懐かしいたずまじい。1階はキッチンと食堂、1・2階で9名が入寮できる部屋があります。それもとすべて個室! 島のお母さんたちが、朝食からお弁当、夕食まで交代制でつくり、朝の登校から島暮らしに関するサポートは、島ナビ隊や地域の方々が行っています。釣り好きな学生も多く、夕方、魚を釣っていると、スタッ

地域のみんながサポート
自律を促す学生寮

フが削いで夕食にしたり、調理法も教えたり、まるで家族のような生活が繰り広げられています。育ち盛りの学生が多いこともあり、みんな食欲も旺盛。毎日の献立にも気を配ります。学生の誕生日には手作りのケーキが登場し、卒業が近づくと関係者みんなが集まってお別れ会。島の人が集まるで自分の子どものように接してくれる「しまなび舎」での寮生活は、毎日がいっぱいになる優しい時間が流れています。



兄弟のようにいつも仲良しの寮生たち



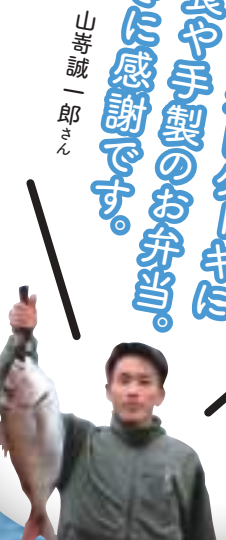
テスト勉強もみんなですとがんばるね!



寮生みんなでメリークリスマス! 今夜は特別メニュー。



「しまなび舎」のみんなも卒業式に参加。学生の門出と一緒に祝います。



山寺誠一郎さん

釣ってきたの刺身は
びっぴりするくらい旨い!
手づくりの誕生日ケーキに
日々の夕食や手製のお弁当。
人の温かさに感謝です。

留学生生活を支える生活空間

離島留学生の生活拠点は、ホームステイができる島内のしま親宅と、学生寮の「しまなび舎」の2ヶ所があります。部屋の掃除や洗濯などは自分で行いますが、食事は朝昼晩と島の方々が用意。家庭の温かさを感じながら過ごすことができます。



ホームステイのしま親宅

お弁当に愛情を感じますと福山勉貴さん(左)



みんなの成長は
私にとってのご褒美なんです

松本美津子さん

奈留島では、家庭で留学生を受け入れる「しま親」さんがいます。なかでも離島留学を始めた2018年から学生を引き受けている松本美津子さんは、今年で8年目。学生から「みっことさん」と呼び親しまれています。早朝5時からお弁当を作ってお見送り、授業と部活が終わって19時すぎに帰ってくる学生を「おかえり! 待っていたよ」と、まるで母のように迎える美津子さん。学生を下の前で呼び合うほどの仲の良さに「だっ

て、我が子のようなものですかね」と笑顔に。学生もそんな美津子さんを心から信頼し、何かあったらいつも相談しているそう。「ご飯もいつもおいしく、健康的な食事に感謝しています」と声が弾む。美津子さんも「しま親として受け入れているからには、卒業するまで責任があります。一人ひとりを尊重し、信頼の心で接しています」。学生さんは私の宝なんです」と話す美津子さん。大人になったら恩返ししたい、という学生。素晴らしい交流と信頼が育まれています。

しま親さんと学生さんの間に
確かに生まれる信頼と愛情

みっことさんの
健康的な手料理も
毎日の楽しみで
島で親しい友人もでき
サイコーな青春を
過ごしています!

福山勉貴さん



お部屋も広々! 整理整頓がきちんとできていました。男女合わせて5部屋。男性の部屋は別棟になっています。



釣ってきた魚を自分でさばいてみんなで味わいます! 川内榮子さん(左)。みっことさんの孫である松本奈留さん(右)は、手作りハンバーグが大好き! と笑顔

みんなの名前を知っている！

ひとつの



子どもたちが
イキイキと元気に
学べる交流の場

奈留島の校舎は、海が見渡せる丘の上にすべて集合しています。広いグラウンドを囲んで保育所、小中学校、高校までが渡り廊下で繋がっており、さまざまなイベントや活動を合同で行っています。行事だけでなく、中学校の先生が小学生の専門科目を担当する乗り入れ授業もこの学び舎ならではの「交流給食会」は、小中高の生徒が机を並べ、お昼ごはんを一緒に味わいます。島の給食センターの方が手作りするお昼ごはんは、毎日の楽しみです。ふわふわのフチパン、もっちりもちの蒸しパン。豊かな漁場が広がる奈留島で水揚げされた魚料理は、最高のごちそうです。食後はグラウンドへ一斉に駆け出し、学年を超えて遊びます。これがとにかく楽しい！ 日常的に

下の世代と上の世代が交流できる奈留の子どもたちは、お互いを思いやる心を人一倍持っています。もちろん名前を知らない子なんてひとりもいません。小学生は中学生に、中学生は高校生に憧れている。この素直で純粋な人間づくりが奈留島の強みです。

現在（令和7年4月時点）、奈留小学校には全児童22名、中学生は15名、高校生は27名が在籍しています。それぞれが少数人数だからこそ何かしら役割が与えられ、人前に立つことも当たり前。授業中ばんやりしている暇もなく、当てられて発言することが日常になっています。つまり、自分の声で考えをしっかりと伝える発言力を持つっているのです。

小学生は学校が終わると一目散に放課後体験クラブ「なるベース」へと向かいます。離島留学生寮「しまなび舎」となると、一軒家をリフォームした空間があり、

子どもたちはここで遊びながら親のお迎えを待ちます。地域おこし協力隊や島のみなさんが創意工夫して完成させた空間は子どもたちの秘密基地のような内装に。月ごとにいろいろなイベントやプログラムが計画され、運動あそびやダンス、英語で工作やゲームを楽しんだり、バレンタインデーの時にはチョコレイトのお菓子作り、夏休みはSUPに挑戦したり、ディキャンプでカレーを作ったりと、子どもたちを飽きさせない年間プログラムがたくさん！ 島の宝である子どもたちに、島のみんなが愛情を注ぎ、見守る子育てが、奈留島の大きな魅力です。

学び舎



奈留高等学校



英語も工作も体験も！
プログラムがいっぱいの

放課後体験クラブ なるベース

お菓子づくり
だーいスキ！



学童の機能を持った放課後体験クラブ「なるベース」には、地域の方を島のマエストロ（講師）として迎え、物づくりや竹細工、釣りなど島ならではの体験や交流を行っています。またスタッフや島ナビ隊の特技を生かした楽しい体験学習も。保護者にとっても安心して預けられる場所になっています。

奈留さくら保育所

いまから
オソで
あそびます～



奈留さくら保育所は、令和6年に小中学校の校舎内に移設。ゼロ歳から3歳までの「もも」、年少の「ゆり」、年中の「ばら」、そして年長の「さくら」の4クラスがあります。天気の良い日は同じ園庭で遊んだり、小学校の授業に年長さんが参加したり、交流の輪が広がっています。もちろん、校舎が同じなので小学生が遊びにくることも。お互いにいたわり面倒を見ることで、心の成長にもつながっています。

渡り廊下

小中学校と
高校をつなぐ
長い渡り廊下

奈留小中学校

小学校



みーんが
仲良し！

子どもガイド



2階建ての立派な校舎に飾られた校訓は「なせばなる」。小1から中3までを前・中・後期に分け、体系的な教育を実施しています。小学1年生から英語に親しみ、小学6年生では、中学校1年生の英語教科書を一部履修するほど。ALT（外国語指導助手）との英語学習や「起立、気をつけ」のあいさつから全て英語の「イングリッシュデー」など、英語が身近なものに。また、ふるさと学習にも力を入れており、小学3、4年生では、観光客に島内を案内する「子どもガイド」の取り組みも。

中学校



子どもと一緒に
新しい生活を

家	族	留	学
体	験	記	

博多港から
8時間の別世界
親子がはじめて
体験した本当の夜空

それは、はじめて地球を
体感した時間だったという小
池さん親子。ビルに囲まれた
カクカクとした空ではなく、
360度広がる宇宙^{そら}。思わず
深呼吸したくなるほど澄み
切った空気と、島の美しさに
心を奪われた小池さん親子は、
福岡から奈留島に上陸して数
時間で、この島に住むことを
決断しました。

「家族留学で奈留島へ行っ
た息子の同級生家族と夏休み
に出会い、奈留島をはじめて
知りました。この翌月の9月
の連休に私たちも行くことに
したんです。最初は五島列島
がどこにあるかも知らなかつ

たんですよ(笑)。島にはじめ
て上陸して散歩をしていたの
ですが、心地よい風、海の広さ、
ゆったりと流れる時間……。
もう直感的にここに住みたい
と思っていた自分がいました。

その気持ちは子どもたちも同
じだったようで、すぐに奈留
小学校へ足を運び、体験授業
に参加させてもらうことに
なったのです。校長先生をは
じめいろんな先生方とお話を
したのですが、児童のみんな
がイキイキとしていて、この
学校の良さがすぐに分かりま
した。都会だと、一学年200
名を超えるマンモス校は当た
り前です。先生の名前も知ら
なければ、クラスメートの名
前さえも知らないことが多い
ですね。でもここはみんなが
名前を知っていて、仲がいい。



小学5年生の息子と、小学2年生の娘と
一緒に令和5年に奈留島へ。家族留学3
年目を満喫中。

かし反対する理由
はひとつもない！
と協力してくれ
ることになり、また
家族留学には補助
制度があり金銭面
で助けられること
も決め手となり、
話はトントン拍子

時には中高生とも遊べる素晴
らしい環境に心奪われました。
福岡に帰るなり、主人をはじ
め家族に家族留学の説明をし
たのですが、最初はみんなボ
カーンとしてました(笑)。し

に進みました。なかなか見つ
からなかった家探しも、地域
の皆様の尽力によって素晴ら
しい家が見つかり、もう感謝
しかありません。小池さんの
熱い気持ちが島民に伝わった
のか、たった半年間で家族留
学が実現しました。
「島生活は感動の連続です。
まず、朝が早い。漁を生業に
している人も多いので、朝早く
から島が動いています。子ども
たちの登校は7時すぎ。朝6時
には起きて朝食作って食べて…
という時間の中に、朝日に見

惚れる時間も。空と海がだん
だんと赤く染まっていくひと
ときは、朝ごはんを食べるの
も忘れるくらい美しいですね。
夜は満天の星空の下、星座を
言い合う子どもたちの後ろ姿
を見ていると、奈留の自然そ
のものが子どもを育ててくれ
ていると感じています」。
1日があつという間に過ぎ
てしまうほど、充実の日々を
過ごしている小池さん親子。
子どもたちがイキイキと生き
ている姿に、幸せを感じる生
活が続いています。

空がこんなに
広い世界があるなんて
知らなかった

島の学校で学ぼう！

しま留学とは

小学3年生から中学3年生までの島外児童生徒を1年間受け入れる教育プログラムです。生徒を受け入れる「しま親」の家庭の中でテレビやゲームではない遊びを楽しみ、都会とは違った本物の自然の中でのびのびと成長することができます。

家族留学とは

小学生から中学生までの子どもとその親(父か母かどちらか)と一緒に島に住み、子どもを島の学校に通わせる教育プログラムです。家族が住む家探しのお手伝いも行います。



奈留島で

コンビニはないけど、

優しい島の人がいるスーパーがあります。

ゲームセンターはないけど、

とびっきりキレイな海があります。

ハンバーガーやピザの店はないけど、

めっちゃうまい魚がいっぱいです。

ここは、人口1800人の小さな島。

大人も子どもも一緒になってイベントやコンサートと

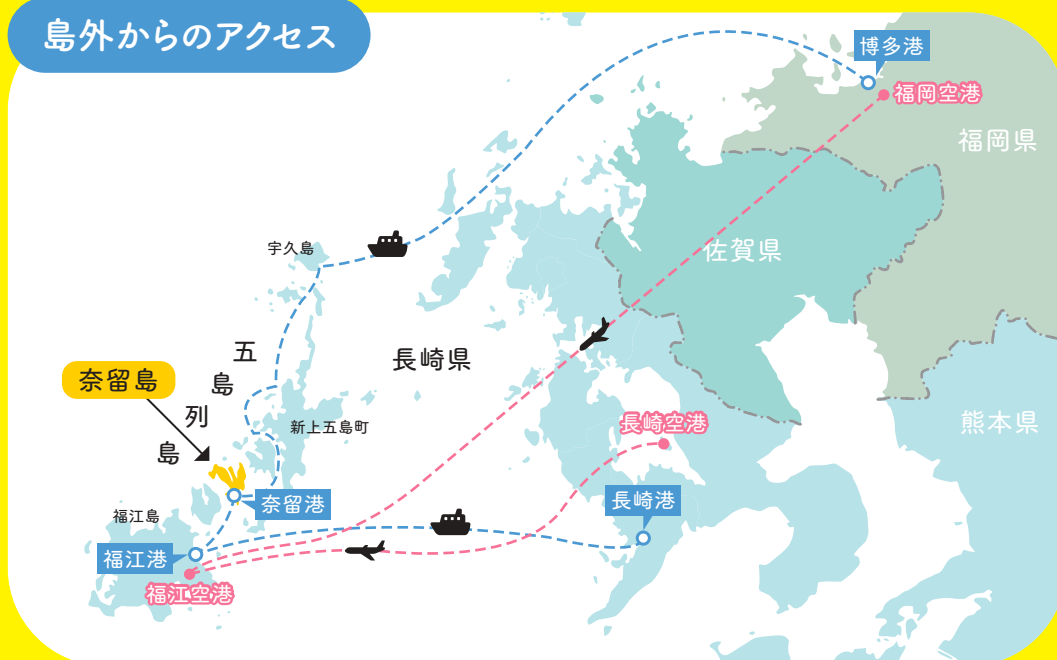
地域活動も積極的に行っています。

本物の自然と島の人たちに見守られながら

新しい生活をはじめてみませんか？

待っちょよっよ。

島外からのアクセス



交通アクセス

長崎港から福江港（五島市）を
經由して奈留港までフェリーが
運航。福江港から奈留港は1日
5便運航中。博多港（福岡）から
もフェリーが往来しています。

福江島経由で奈留島へ

飛行機 長崎空港から約30分／福岡空港から約40分

ジェットfoil 長崎港から福江港まで約85分

福江港から奈留港 高速船で約30分・フェリーで約45分

直行で奈留島へ

長崎港から奈留港 フェリーで4時間20分

博多港から奈留港 フェリーで7時間40分

奈留島の保育所・学校について



奈留さくら保育所
☎0959-64-3311



奈留小中学校
☎0959-64-2004



奈留高等学校
☎0959-64-2210

各留学制度情報



離島留学制度（高校生）
長崎県立奈留高等学校
☎0959-64-2210



しま留学・親子留学（小中学生）
五島市教育委員会 学校教育課
☎0959-72-7801



島についてのお問合せ
奈留まちづくり協議会
☎0959-64-3203